

# 平成 26 年度外部評価委員会 機関評価結果（岡山県環境保健センター）

日時：平成 26 年 9 月 1 日

場所：ピュアリティまきび

## 評価項目 1 運営方針及び重点分野

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
なし	4人	2人	なし	なし

センターの運営方針を「県民の安全・安心を科学的・技術的側面から保障する機関」という分かりやすい文言に集約し、それをセンターのホームページ等で県民へアピールしていることは高く評価でき、また、微小粒子状物質(PM2.5)や重症熱性血小板減少症候群(SFTS)など、現状に即した課題への対応を優先していることも十分評価できる。

一方で、限られたマンパワーの中で、緊急事態に迅速に対応できるよう、予め組織内での応援態勢を整備することが望まれる。

## 評価項目 2 組織体制及び人員配置並びに予算配分

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
1人	3人	2人	なし	なし

職員の高齢化や若い世代への技術の継承については、改善が図られている。また、職員の専門性を維持しつつ、応用力を高めるため、所内兼務による幅広い技術の習得に努めていることは、評価できる。

全庁的に厳しい財政状況の中で、外部資金を含め予算配分は適切にされている。

一方で、専門技術を持った職員の人事異動や職員の適切な配置についての配慮を人事当局に要請して欲しい。

## 評価項目 3 施設・設備等

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
なし	3人	3人	なし	なし

予算に限りがある中で、機器整備に充てる財源の確保に努め、必要な検査機器については、概ね補充・更新がなされている。また、超微量化学物質分析施設や安全検査施設という時代のニーズにマッチした施設が整備されている。しかしながら、当該施設を含め、一部の施設・設備等に老朽化が懸念されるため、引き続き更新・整備に向け予算獲得に努めて欲しい。

今後は、施設や設備の導入時に予め耐用年数と更新計画を策定するなど、計画的な機器整備を行う体制づくりが必要である。

#### 評価項目 4 研究成果

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
1人	2人	3人	なし	なし

検査業務や監視業務で得られた知見を効率的に活用し、限りある予算で、研究成果を出していることについては、評価できる。また、年報の他、業務で得られたデータ等を積極的にホームページにも掲載していることも、評価できる。今後とも、研究の継続性維持に努めるとともに、一般の県民により分かりやすい形で紹介する等、研究成果のPRに努めて欲しい。

一方、前回の機関評価でも指摘したように、学会発表や論文掲載数が減少傾向にあり、特に環境分野の学会誌への投稿が無いのは課題である。今後は、職員の学位取得などスキルアップの面からも大学等と連携するなど、研究レベルの更なる向上を目指して欲しい。

#### 評価項目 5 行政検査、依頼検査、研修指導、情報提供等の実施状況

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
なし	6人	なし	なし	なし

「県民の安全・安心を科学的・技術的側面から保障する機関」として、増加する行政検査や依頼検査に対して積極的に対応しており、特に、最近、県民の関心が高い案件（PM2.5、SFTS、危険ドラッグ等）にも適切に対応している。また、他機関等への研修指導も実施できている。

今後は、増加する検査件数に対応するマンパワーの確保や、環境部門において現場での指導・習熟が必要な技術（煙道排ガス検査等）の継承などにも留意する必要がある。

#### 評価項目 6 人材育成

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
なし	3人	2人	1人	なし

所内兼務による技術の習得や外部の技術研修への計画的な参加等、人材育成のための取組みは概ね妥当である。

しかし、職員の研究能力の向上につながる学会等への参加回数が減少傾向にあるため、予算の確保等に努め、各職員が自発的に専門技術や知識の吸収を図り、スキルアップを目指せるよう組織的な工夫が必要である。

### 評価項目7 他機関との連携

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
なし	3人	3人	なし	なし

多数の他機関と連携し、共同研究や分担研究を行っていることは、評価できる。

一方で、大学や学会等との連携は不十分と考えられるため、人員や予算等で無理が生じないよう十分配慮しながら連携を強化する必要がある。

連携している内容は、県民の安全・安心に深く関わるものであり、今後は、より連携を深め、得られた成果を県民に還元していくことを期待する。

### 評価項目8 県民・地域への貢献

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
1人	2人	3人	なし	なし

公開講座や広報誌の発行等を積極的に実施し、大気汚染の状況等、県民の関心の高い情報をホームページで発信していることは評価できる。

しかし、センターに対する県民の理解は、十分に高いとは言えないため、業務内容等をより「見える化」するなど、一層、親しみやすく、分かりやすい形で発信する工夫が必要である。

### 評価項目9 前回指摘事項への対応

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
なし	2人	4人	なし	なし

前回の指摘事項は徐々に改善しており、対応状況は妥当である。

しかしながら、競争的資金の確保、学会発表、論文掲載、大学等との連携については、更に改善の余地がある。

### 総合評価

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
なし	6人	なし	なし	なし

「県民の安全・安心を科学的・技術的側面から保障する機関」として、限られた人材と予算の中で、的確に業務を推進し、職員の知恵を集めて努力している姿勢は高く評価できる。今後は、特に次の点に留意し、更なる改善を進めることを期待する。

- 1 ホームページの存在を含め、センター全体のPRをもっと積極的に行い、県民に幅広く

センターに対する認識を深める努力をすること。

- 2 人員配置、予算配分、施設・設備等については、関係部局に十分な配慮を求めること。
- 3 これまで達成されなかった事項について、対応方針を明確にすること。